学校評価の自己評価

学校法人坂本北海道学園 認定こども園 ピノキオ苫小牧幼稚園 エンゼル幼稚園

1. 園の教育目標

2021年3月31日現在

「子どもの全面発達」を促しながら、

一人ひとりの子どもの個性を大切にし その「可能性」を伸ばします。

そのために、毎日の生活を 次のことに留意して過ごします。

- 1. のびのびと遊び、本物に触れ 感動する心と豊かな情操を育みます。 (素直でやさしい心を育てましょう。)
- 2. 健康な体をつくります。
- 3. 自分で決めたことは最後までやり通し、自分に自信をつけます。(4歳児以上)

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を基に設定した学校評価の具体 的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自分の保育や自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とします。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

評 価 項 目	取組み状況
年間指導計画は、子どもの実態などをもとに考えて作成しましたか。	2020年度当初からこれまでの指導計画を全面的に見直し、2021年度以降の教育保育活動に向けて新しい年間指導計画を作成しました。 また、それについての研修会を開催して全職員に改めてその内容を周知しました。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な 手立てを講じましたか。	教師は日々子どもの記録を参考にして子どもの実態を把握し、日案の 作成や指導計画の更新に反映させるようにしました。
全体で行う教育行事を通して各クラス や学年の経営成果を発表しあい、お互い に切磋琢磨しましたか。	各クラスや学年で月や週の目標を定め、教育行事ごとに達成状況を発表し合うようにしました。 また、新型コロナ感染予防に備えるためたくさんの教育行事の開催方法を「子どもの育ち」を考えながら見直しました。
子どものよさを認めて評価しましたか。	園全体で子どもの状況を共有し、クラスの枠を超えて一人ひとりの子 どもの良さを認め具体的に評価するよう心掛けました。 また、コロナの為休園だった時期は保護者と連絡を密にして各ご家庭 でもお子さんの良いところを見つけ褒めてくださるようお願いしま した。

遊びを通して工夫したり協力したりする姿を大切にし、子ども達の輪が広がるようにその環境作りに心掛けましたか。	自分でお友達と関われない子どもには教師が積極的に集団遊びの輪 に誘い、そこを発展させて友だちと協力して遊べる環境を準備するよ うにしました。
規則正しい生活習慣の定着に向けての 指導を行いましたか。	登園から降園までの一日の流れのなかで、身に付けてほしい生活習慣の獲得を促しました。 長い休み期間は各ご家庭へ生活のリズムを守るよう協力を呼びかけました。 また、コロナ禍での感染防止対策を日常に取り入れるよう積極的に指導しました。
公開保育を行い、教員資質の向上をはか りましたか。	冬休みに公開保育を行い、お互いの保育を見合うことによって、保育 環境の向上をはかりました。
各研修会や研究会に積極的に参加して、 研鑽をつみましたか。	2020年度はコロナの影響で研修会が中止になったりしましたが、Web での参加をするなどの方法で研修を受けました。
園だよりやホームページを通して、幼稚 園の情報を発信しましたか。	園の教育方針や取組みを情報発信するように、園だよりに記載したり、ホームページに保育活動の写真や動画を掲載したり積極的に取り組みました。
自然災害に備えた防災教育に取り組みましたか。	北海道シェイクアウトに参加し、なるべく色々な保育場面での対応を 子ども達共に体験し、防災教育に勤めました。 避難訓練は、火事、地震、津波、竜巻等を想定して毎月色々なバージョンで実施しました。
最近の発達支援を必要とする幼児数の 増加傾向に合わせて、発達支援教育を充 実させましたか。	これまでも発達支援教育については苫小牧市のおおぞら園と協力して、積極的に進めています。 今後も、研修に参加するなど研鑽を積みたいです。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理由
A	2020年度はコロナ禍の影響で実施できなかった教育活動や、実施しても開催に大きな変更を余儀なくされた活動など例年とは大きく違う面がありましたが、毎月の学年会議や毎週の週案会議などで子ども達の状況を教師が相互に共有し、子どもの育ちを確認し、次の保育内容や指導の評価に取り組んでいました。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組み方法
コロナ禍で日常のあり方が変わったので、それに合わせた安全 な園生活の方法を考える。	2020年度は突然のパンデミック対応となり、その場その場での対応でしたが、 今後は対応の仕方をレベルによって統一して全体がスムーズに動けるよう体 制を作りたい。
食育教育のなお一層の充実	現在、給食はエクストラバージンオリーブ油・北海道産ゆめぴりかを使用し、 化学調味料はなるべく使わず薄味で素材の味を大切にするなど、調理面では努 力してきましたが、今後は子ども達の調理活動にも力を入れるようにしたい。